高野七口活性化プロジェクト

成果報告書

指導教員

尾久土正己・児玉康宏

プロジェクトメンバー

朝木彩加・家谷翔太・市川伊織・今井寿樹・岩井志文・梅田晃輔

太田真里亜・木岡大湖・酒井拓夢・佐藤味礼・島村紗良・下中遼太

土佐京平・荷宮野乃花・野尻野翼・松尾衣絹・森下祐衣

2013 年度

●概要

高野山には7つの入り口(高野七口)へつながる参詣道があるが、世界遺産に登録された町石道以外はあまり注目されていない。そこで私たちは来たる2015年春に行われる高野山開創1200年記念大法会に向けて、若者にも高野山への関心を集めるために、また高野七口周辺を活気のある場所にするために学生の若い力を活用して活動をしていくため昨年度から活動を始めた。私たち自身で自発的な活動プランを考え、その活動を通し試行錯誤していくなかで、地域再生・観光経営の両面において学習することも目的である。

●今期の目標

今期は大きく3つの目標を設定した。1つ目は、地域住民との交流をより深めるということである。前年度は高野山の地域住民との関わりが希薄であったが、地域住民とより深い交流をすることで高野山についての知識や情報をさらに得ることができ、地域に根付いた活動ができると考えた。2つ目は、本プロジェクトの活動についての広報の強化である。活動内容や高野山の魅力を若者に向けて発信するだけでなく、他大学との交流などを通して高野山に関心を持ってもらう必要がある。3つ目は、後輩の勧誘と組織の拡大である。結成されてもうすぐ2年が経過し、来年度から現メンバーは3回生になる。このままだと活動が絶えてしまうため、現メンバーの意志を引き継いでくれるメンバーが必要になった。2013年度はこれら3つの目標を達成するために、後述するさまざまな活動に取り組んだ。

●主な活動内容

＜高野七口・高野山においての調査、活動一覧＞

2013年7月	第1回実地調査（高野町内店舗）
2013年8月	高野山ろうそく祭りボランティアスタッフ参加
2013年10月	第2回実地調査（黒河道）
2013年10月	第3回実地調査（高野町内店舗）
2013年11月	高野山大学学園祭参加（出展）
2013年11月	第4回実地調査（高野町内店舗）
2013年12月	オペラ「石童丸ものがたり」運営ボランティアスタッフ参加
2014年2月	早稲田大学観光学会との交流会・高野山観光ツアー実施

・実地調査（高野町内店舗）

今年度は7月、10月、11回に高野町内店舗の調査を3回､高野七口の1つである黒河道の調査を1回実施した。

高野町内店舗の調査では、普段本プロジェクトがお世話になっている店をはじめ調査を通して見つけた土産物店や飲食店などを訪れ、本プロジェクトの活動についての説明やアンケート調査を実施した。アンケートの内容は本プロジェクトの活動内容や、2015年に行われる「高野山開創1200年祭」についてである。

この実地調査で得ることができたお店の情報を利用して、今後若者をターゲットとしたお店紹介のパンフレットなどを制作したいと考えている。また、この実地調査を通して高野町内にあるお店で働く人とコミュニケーションをとることができ、本プロジェクトにとって大変有意義なものになった。今後もこの実地調査を続けていきたい。

・実地調査（黒河道）

今年度は高野七口の調査として、現在はほとんど使われなくなってしまった「黒河道」の調査をクリエ研究支援員の児玉さん指導のもと実施した。黒河道は、高野七口の 1 つであるにもかかわらず他の参詣道に比べ知名度が低く、人があまり通らないために荒れ果ててしまっている。こうした現状を知るために調査に赴くと、道は草が生い茂っており、道の判別がつかない状況であった。それに加え、調査時期が台風通過直後だった影響もあり、山肌は崩れ、整備されていた橋などは流されており、とても人が歩けるような状態ではなかった。

調査を通してこの現状を知ったことは、いかに高野七口の存続が大変であるかを知ることができる貴重な機会となった。同時に、道中には様々なスポットがあり大切な資源であることも改めて分かった。この資源を活かし様々な人に訪れてもらうためにも、整備の必要性を強く感じた。これまでの実地調査で訪れた七口のなかで最も険しく大変だったが、高野七口の活性化を考えるうえでこうした道の存在の大切さを感じた。

・高野山ろうそく祭りボランティアスタッフ参加

昨年度に引き続き、高野山ろうそく祭りにボランティアスタッフとして参加させていただいた。昨年度は当日参加のみであったが、今年度は事前会議、当日のお手伝いと後片付けに加え、打ち上げにも参加させて頂き、計 3 日間にわたる活動となった。

昨年度の反省点であった時間の制約については現地の方に宿を提供してもらうことで克服でき、非常に充実したものになった。ボランティアとして祭りの運営に貢献するだけでなく、ボランティア活動を通して地域の方と触れ合い協力しながら活動できたというプロセスに大きな意義があると感じている。地域の方々と良い関係を築くというのは、高野山で活動する上で非常に重要なことである。

また、今年度初めての取り組みとして本プロジェクトに所属していない学生をボランティアスタッフとして募り、共に活動に取り組んだ。3 人の参加してくれた学生に高野山でのボランティアを体験してもらうことで、高野山に対する興味を持ってもらうことができた。今後のボランティア活動でも本プロジェクトに所属していない学生に対して積極的に呼びかけていきたい。

・高野山大学学園祭参加

今年度初めての取り組みとして、高野山大学の学園祭である「曼荼羅祭」に参加させていただいた。ろうそくまつりの時に知り合った高野山大学学友会からの依頼により、高野山周辺で活動する和歌山大学の団体として参加した。事前に準備を重ね、本プロジェクトの活動を紹介するパンフレットや看板を作り、学園祭を訪れた方に配布して見ていただいた。これにより、高野山周辺において本プロジェクトの活動をより認知してもらうことにつながった。本プロジェクトを知っている現地の人が声をかけてくださるなど、本プロジェクトの活動を知ってくれている人々が少しずつ増えてきているのを感じた。また、共に高野山で活動する高野山大学の学生と交流することで、本プロジェクトの目標の１つである若者の力による高野山周辺の活性化への足がかりを作ることができた。

今回はこれまでの活動とは異なり、1 箇所にとどまって訪れた人に対してアプローチをかける活動であったが、学園祭がどのくらいの規模であるのか、どれくらい人が訪れるのかといった見通しが不十分であったと感じる。そのため配布予定のパンフレットはかなり余ってしまった。今後も、実地調査やボランティア活動などといった様々な活動に参加する機会があるが、活動の形式に応じて人員や準備などの適切な見通しをすることで、より効率的に活動を行う必要があると考える。

・オペラ「石童丸ものがたり」運営ボランティアスタッフ参加

昨年度に引き続き、はしもとしふるさとオペラ主催の「石童丸ものがたり」の運営ボランティアスタッフに参加させていただいた。本番の前に、打ち合わせ、会場設営、リハーサルに参加させていただいてから本番を迎えた。本番後の会場の後片付けにも取り組んだ。

前日練習や会場設営から参加させていただいたので、出演者の方々のオペラに対する熱い思いや本番へのイメージを共有することができ、一緒に作りあげていく実感を味わう中でメンバーのモチベーションが上がった。その一方で、当日のみ参加したメンバーが状況を把握しきれていない部分が少しあった。昨年度の経験や、練習の中でいただいた指示の共有をもっとすべきであったと感じた。

しかし、今年度が 2 回目の参加ということで自分たちから仕事を見つけようとする姿勢をもつことや、その場でいただいた指示に臨機応変に対応することができたと思う。来年度もまた参加させていただけることになれば、この経験を活かしはしもとしふるさとオペラの方々との関係も継続していきたい。

・早稲田大学観光学会との交流会、高野山観光ツアー実施

今年度初めての取り組みとして、早稲田大学観光学会との交流と高野山観光ツアーを実施した。早稲田大学観光学会は、東京都内を中心とした定期的な参加型ツアーの企画や観光学を学ぶゼミ活動を行っているサークルである。今回は合宿という形で、和歌山まで足を運んでいただいた。

1 日目は早稲田大学観光学会主導で交流会を実施した。早稲田大学観光学会と本プロジェクトがお互いの活動を紹介しあった後、簡単なワークショップに合同で取り組んだ。ワークショップはお互い協力しあって取り組むことができる内容で、話すきっかけができてよかった。交流会に参加できた本プロジェクトのメンバーが少なかったのが反省点であるが、短い時間であったものの有意義な交流会になった。

2 日目は本プロジェクト主導で高野山観光ツアーを実施した。いきなり乗る予定だった電車に乗れず旅程が狂ってしまったり、予定していた昼食場所で昼食をとれなかったりとハプニング続出で、かなり迷惑をかけてしまった。その上、本プロジェクトの活動として冬に高野山を訪れたのは初めてで、冬の高野山ならではの注意点などを把握しきれていなかった点が大きな反省点である。高野山のツアーは長い間実施しておらず知識やスムーズな旅程の進め方の抜けもあったため、若者を高野山に呼び込むためにも今後実地調査やボランティア活動に加えてツアーを積極的に実施していく必要があると感じた。

反省点は多々あるものの、本プロジェクトとしては初めて冬の高野山を訪れ、初心に戻って高野山の観光ができたことや、活動場所が大きく異なる早稲田大学観光学会の学生とお互いの様々な話ができたことで、今後の活動の原動力となった。せっかくの縁で作ることができた早稲田大学観光学会との交流を引き続き深めていくためにも、次回は本プロジェクト側が東京へ足を運ぼうと考えている。

そして、これは早稲田大学観光学会側が本プロジェクトの活動を知り、メールを通じて依頼してくださったことで実現したものである。関東の大学の学生団体が和歌山で活動している本プロジェクトを見つけることができたのは、後述する広報活動に一定の効果があったのではないかと考えられる。

・広報活動

今年度は新たに広報班を設け、本プロジェクトの主要な活動として広報活動に重点を置いた。広報活動は大きく分けて 4 つ実施した。1 つ目は、昨年度から更新しているブログの継続である。活動ごとに毎回担当を決め、その活動を報告している。2 つ目は、Facebook ページと Twitter を利用した広報活動である。Facebook ページは現在までで約 200 人の「いいね！」をいただいた。またこのページを通じて外部の方から連絡をいただくこともあり、活動に繋げることができた。Twitter も活動ごとに更新することで更新頻度を増やし、本プロジェクトメンバーによるリツイートを積極的に実施している。最近では 1 回生や他団体のフォロワー、リツイートも増加しており、手応えを感じている。3 つ目は、ホームペー

ジの作成である。メンバーのプロフィールやこれまでの活動、今後の見通しなど、本プロジェクトについての情報をまとめたものとなっている。このホームページは 1 回生からの閲覧もあり、新メンバーの獲得の手助けとなった。4 つ目は、ポスターとパンフレット作成である。ホームページの内容を凝縮させ、手に取って気軽に見られるようにした。高野山大学の学園祭、実地調査、ボランティア活動の際にこのパンフレットを配ることによって、多くの方に本プロジェクトの活動について知ってもらうきっかけを作ることができた。また、和歌山大学広報室と観光学部教務係のご協力をいただき、学内に掲示することができた。

様々な方々のご理解とご協力をいただいたおかげで、今年度力を入れた活動の 1 つである広報活動はある程度の成果を見いだせたと考えている。来年度も引き続き広報に特化した班を設け、主力活動として広報に力を入れていきたい。

●今後の展開

今年度は地域の方と交流をもつことを中心に活動したため、ボランティアなど地域の方から依頼されて活動することが多く、逆に主体的な活動が少ない結果となった。そこで今後は、私たち自身が主催するツアーやイベントを行いたいと考えている。こうしたツアーやイベントには、今年度関わることができた地域の方を巻き込めるものにできるよう考え、より地域に根付いたプロジェクトになっていきたい。それを通して 2015 年の 1200 年祭にて、どのように私たちが関わっていくのかを決めることも重要である。

また、今回新メンバーとして 10 人の後輩の勧誘に成功した。新メンバーとしてどのように迎えいれるのか、そして考えの共有や作業の引き継ぎに力を入れる必要がある。団体としても人数が増え、より効率で効果的なチームマネジメントが求められる。メンバー全員で考え、一人一人が自主的に行動できる団体になるようマネジメントする。

これからも私たちの活動が高野七口周辺の活性化になるよう努めていく。